

平成25年6月4日

原子力規制委員会委員長 田中俊一 殿

敦賀市長 河瀬一治

### 敦賀発電所敷地内破砕帯の評価に関する意見書

日本原子力発電(株)敦賀発電所の敷地内破砕帯の評価に関しては、平成25年5月13日付けの「敦賀発電所敷地内破砕帯の調査に関する意見書」にて、結論を急ぐことなく、事業者の調査結果や国内外の多様な意見なども反映して、幅広い見地から慎重に審議するよう、申し入れたところであります。

しかしながら、本市からの意見は聞き入れられることなく、第5回評価会合にて、「2号炉直下を通るD-1破砕帯は、耐震設計上考慮する活断層である」とする評価書が取りまとめられ、原子力規制委員会においても実質、僅か20分余りの審議の末、有識者会合の評価書が了承されたことは、原子力発電所の存廃に関わる重大な決定にも拘らず、十分なデータを踏まえた慎重な審議が尽くされたとは思えません。また、何ら科学的データを示さず、「否定できない」という論理によってのみ判断することは、科学的・技術的見地から意思決定を行うという貴委員会の方針とも矛盾しているものと感じております。

敦賀発電所敷地内破砕帯の今回示された評価については、今後、新たな知見が示された場合、見直すこともあり得るとしていることから、原子力発電所が現に立地する自治体として、下記のとおり意見を提出いたします。

#### 記

- 1 貴委員会に対し、事業者による調査結果が提出された際には、再度、専門家による会合を開いた上で、予断を持たず、あらためて慎重に審議をしていただきたい。
- 2 評価会合や調査のあり方などについては、評価に携わった有識者や貴委員会委員からも問題が指摘されていることから、今後の審議にあたっては、より幅広い分野の専門家を審議に参加させるなど、指摘を踏まえた抜本的改善を図っていただきたい。